

会 議 名	令和6年度 第1回 稲沢市社会教育委員会・公民館運営審議会
開 催 日 時	令和6年5月31日（金） 午後2時30分～3時55分
開 催 場 所	稲沢市勤労福祉会館 3階 第2・3会議室
主 催	生涯学習課
議 題	◎あいさつ 協議事項 1 令和5年度主要事業報告について 2 令和6年度主要事業に係る取り組みについて 3 その他
出 席 者	【委員】 山内晴雄、吉川光彦、大野芳樹、大室有美、渡辺香織、牧修、 牛嶋みゆき、内藤伸一郎、木村甲志朗 【事務局】 教育長、教育部長、生涯学習課長、スポーツ課長、図書館長、美術館長、 各課グループリーダー、社会教育指導員、生涯学習課主任 計14名
備 考	傍聴者なし

【会議概要】

辞令交付 稲沢市小中学校PTA連絡協議会 副会長 木村 甲志朗 委員

◎あいさつ

（教育長）

- ・第1回社会教育委員会に御多用のところお集まりいただいたことへのお礼。
- ・本日は、「令和5年度主要事業報告について」、「令和6年度主要事業に係る取り組みについて」ご審議いただく。
- ・最近では、様々なところで物価が高騰している。そのような状況でも必要なことや、大切なことについては、何とか実現していきたいと思っている。
- ・委員の皆様には、社会教育について様々なご提案、ご意見をいただきたい。私どもとしても、それをさらにブラッシュアップして、より魅力的で、市全体としてもこれは実現しようではないかと思えるような施策を作っていかなければいけないと思っている。現実とのすり合わせの中で、どのようにしていくか、我々なりに努力して参りたい。

（委員長）

- ・他市町と違って、稲沢の場合は実質的な公民館はない。そうすると運営の仕方や社会教育事業のあり方についても違ってくる。

- ・社会教育や生涯学習という言葉についても突き詰めなければいけない。県でも、区別がつきにくい部分があり、新しい形にしなければいけないと生涯学習課からあいちの学び推進課に名前が変わった。

- ・本日、説明があるだろうと思うが地域学校協働活動は大きな転換になると思う。以前から、教育白書の中でも文科省が言っていたのが、今の地域学校協働活動のような考え方になる。学校の中に、いわゆる児童クラブや学童保育のようなものだとか、地域の人たちが入り込める施設を作って、みんなで子どもたちを育てていこうではないかという案はあった。なかなか行政の立場それぞれの専門部署ではやりにくい部分があって、進んでいないこともある。市民の理解もまだ進んでいない部分もある。この機に変えていかなければいけないと思う。

- ・様々なご意見を賜りたいと思うので、よろしくお願いします。

◎議題

1 令和5年度主要事業報告について

資料1「令和5年度 主要事業報告書」について生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順で説明

(生涯学習課)

- ・主な内容について、文化グループ発表会は、令和5年度からこのようなイベントのノウハウが蓄積されている稲沢市文化振興財団に委託した。文化振興財団に委託することにより、よりスムーズに舞台演出等が進むようになった。

- ・市制65周年記念事業について、性海寺様のご協力を得て、県指定をはじめとする、指定文化財19点を荻須美術館にて展示を行った。

- ・地域学校協働活動推進事業が、令和5年度からスタートした。初めは、稲沢市地域学校協働活動推進員もなかなか決まらないところもあったが、最近まだ決まっていなかった学校もようやく決まり、これですべての学校で揃うことになる。

- ・文化部活動地域移行推進事業について、県から単年度事業として委託を受け、校長会で選定をしていただいた治郎丸中学校を指定校として行った。稲沢市民吹奏楽団の団員の指導を受けていただいた。今後は活動場所、部活動指導者と生徒の信頼関係の構築方法などをどう解決していくかが課題となっている。

- ・市民会館の整備改修工事については、大ホールの天井落下防止工事が完了し、引き続き中ホールの天井落下防止工事を行っている。こちらは近日中に完了を予定している。

(スポーツ課)

- ・トップアスリートとの交流事業について、市内中学校部活動の巡回指導として、バレーボールチームウルフドッグス名古屋、ハンドボールチーム豊田合成ブルーファルコンの協力のもと、中学校の部活動に選手・指導者を派遣し、生徒の皆さんにトップレベルの技術やプレーを体感してもらうことにより、競技力の向上に繋がった。また、7月28日には、小学生対象のバレーボール体験教室を開催し、127人の参加があった。なお、バスケットボールチーム豊田合成スコピオンズの巡回指導については、調整がつかない

かったため昨年度は実施ができなかった。

- ・スポーツ振興基金の運営として、市内在住の18歳以下の優秀なスポーツ選手に優秀ジュニア選手として奨励金を交付し、さらに競技力向上するよう支援を行った。優秀ジュニア選手の選考については、スポーツ振興基金運営協議会での審査を行った上、5名を認定した。

- ・地区体育振興会について、市内では各地区の体育振興会が活動しており、運動会については、新型コロナウイルスの影響により、令和2年度から4年度までの3年間全ての地区で中止となっていたが、令和5年度は、各地区で運動会の実施が再開された。運動会を実施した地区では、実に4年ぶりの開催とあって大変盛り上がっていた。課題としては、各地区体育振興会への補助金の交付にあたって、運動会と3種目以上のスポーツレクリエーションの実施が条件となっているが、コロナ禍により運動会を3年間実施していなかったことや役員交代により経験された方が大変少なくなったことなどにより、体育振興会の運営に非常に苦勞されており、特に運動会の実施が非常に困難になっている地区がある。昨年度の体育振興会の会長会においても、運動会を実施しなくても、スポーツレクリエーションの実施のみで、補助金が出るようにして欲しいとの意見が複数出された。そのためスポーツ課においては、各地区体育振興会の現状を考慮し、補助対象内容の見直しについて検討を進めた。その結果、今年度から子どもから高齢者までの多世代が大勢集い、地域住民の親睦と健康増進を図る事業（ウォーキング大会など多世代かつ多数の人数が集まるイベント）を運動会に代わる事業とすることに制度の変更、要綱の改正を行った。

- ・第35回稲沢シティマラソンは、11月12日に開催した。当日は特別ゲストとしてウルフドッグス名古屋の現役選手、山田脩造選手とチームマスコットのウルドくんに参加をいただき、晴天のもと1,666人が参加した。また、市制65周年記念のお祝いとして、TGスポーツ株式会社様から、マラソン参加者にウルフドッグス名古屋の公式戦の無料招待をいただいた。

- ・スポーツ参加人口の年度別推移について、令和2年度以降新型コロナウイルスの影響により大きく減少したが、徐々に回復傾向にある。コロナ禍によりスポーツを含めた地域の活動が縮小や変更を余儀なくされたが、まずはコロナ禍前の状態に早く戻れるよう事業を進めて参りたいと考えている。

(図書館)

- ・利用状況について、貸出冊数、利用者人数、予約冊数は、ほぼ前年度と変化はない。入館者数は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、学習室や閲覧室の制限を徐々に取り止めたことにより、中央及び祖父江の森図書館の入館者数が増え、前年比107.86%となっている。昨年度から大きく増加したものについては、AV館内利用が前年度の6.3倍、インターネット館内利用が1.68倍となった。いずれもコロナ禍前の令和元年度の実績にはまだ及ばない数字となっている。

- ・図書館の事業については、読書及び啓発活動のうち子ども読書の日にちなんだイベント及び秋の読書月間イベントについては、それぞれ直接子どもたちと触れ合い活動する

図書館ボランティア「そよかぜ」のこどものひろばを除いては、全てコロナ禍前と同様に復活をしている。図書館ボランティア「そよかぜ」についても、代替として、完成品を配布するブースの設置を変更して、今年度には実際に子どもの広場を復活している。いずれの事業についてもコロナ禍前の状況に近づいている。

- ・その他イベント、講座・講演会について、イベントにおいては、愛知文教女子短期大学との連携事業として、中央及び祖父江の森図書館での学生ボランティアによるお楽しみ会、12月には絵本とサンドアートのコンサートを開催した。講座・講演会においては、名古屋文理大学との連携事業として、著作権を考える講座と図書館教養講座の第2回で、講師派遣プログラムにより、講師をお招きし、食品表示に関する講座を開催した。また、新たに教養講座の第1回で、ワイン世代つまりティーンエイジャー世代を対象とし、現役のテレビディレクターの方にお話をいただく講座を開催した。

- ・子ども読書活動推進計画では、令和3年度に続き、市内の子どもの読書活動の実態調査を実施した。

(美術館)

- ・令和5年9月に荻須作品2点を購入した。世界で唯一の荻須高德の記念美術館として、また、5年度は稲沢市市制65周年、荻須記念美術館開館40周年の節目にあたる記念すべき年度のため、荻須画伯の画業を語る上で欠かせない重要な作品の散逸を防ぎ、当館の所蔵品を充実し、当館及び荻須画伯の偉業をPRしていくために、令和5年9月に絵画2点を購入した。これにより荻須画伯の油彩画は42点となり、現在、荻須作品は合計247点を所蔵している。今後も貴重な荻須作品を周年事業等に合わせて購入できるよう事務を進めていく。

- ・展覧会事業の特別展について、周年事業として、特別展「長谷川潔展 ―京都国立近代美術館コレクション―」を常設展では、「荻須高德展 ―新収蔵作品と主要展覧会出品作を中心に―」の2つの展覧会を同時開催した。荻須高德と同時期にパリに滞在し、荻須画伯とも交流があった版画家、長谷川潔の作品を京都国立近代美術館コレクションから約70点をお借りし展示した。荻須高德展は、荻須画伯の画業の節目となる3つの重要な展覧会に焦点を当て、時代ごとの画風の変遷をたどり、当館が収蔵する展覧会出品作品を中心に、5年度に新規購入した2作品を当館の所蔵品として初お披露目した。

- ・企画展の「磯野宏夫展 ―生命輝く森―」については、世界各地の熱帯雨林に足を運び、生命力溢れる森や動物の風景画を描いた稲沢市出身の画家、磯野宏夫について、その代名詞ともいえる色彩豊かな風景画に加え、今なお高い人気を誇るゲームソフト聖剣伝説のビジュアルイメージや企業カレンダーの原画など、アクリル画49点を展示し、その多彩な作業を紹介した。会期中、台風の襲来、電気設備の不良と予期しない出来事で、計2日間の臨時休館があったが、合計4,492人、1日当たり平均約110人の方にご鑑賞いただいた。

- ・これまでは秋に年1回の主催展覧会を開催してきたが、今年度は夏に企画展を秋に特別展と今回は周年事業としての常設展の同時開催と年に2回の主催展覧会を実施することが、初めての試みであったため、比較は難しいが、例年の7月から8月の常設展来館

者数がおおよそ500人前後であると考え、大幅な来館者数アップに繋がったといえる。来場者アンケートを分析しましたところ、市内だけでなく、市外県外からの来館者も多く、全体の57%を占めた。

・新聞広告をはじめSNSのX（旧ツイッター）、インスタグラム等や磯野作品の所蔵企業のYouTube配信など、紙媒体以外の広報活動にも注力したことが功を奏したのではないと思う。来館者の約4割が10代から30代で、例年に比べ、家族連れや若い年齢層の来館者も多かったと思う。当館に初めて足を運んだという方も51%と約半数を占め、長年の課題であった新たな客層へのアプローチに貢献できたことは、嬉しい成果と考えらる。期間中は講演会等を開催したが、こちらも定員を上回る応募があり、反響は上々だった。また、企画展では、フォトスポットコーナーを設置した。ダンボールで作られたオランウータン、ナマケモノ、キツネザル等の熱帯雨林の動物を主にした展示業務を稲沢市出身の造形作家に委託したものになる。当美術館は作品の保護等のため写真撮影はお断りしているが、フォトスポットコーナーでは、作品に触れない限り、自由に撮影していただいた。また、SNSでの広報活動の一環として、フォトスポットで撮影された写真をSNSにアップしてくださった方々に、先着順で磯野作品が掲載された紙ファイルをプレゼントという企画を行ったところ120人ほどの来館者にご協力いただいた。

質疑応答

(A委員)

- ・5年度で反省したことが、6年度に活かされているかを教えて欲しかった。こういう理由でなくしたとか、増やしたとか、そういうのがあると意見が言いやすい。
- ・様々な講座が行われていると説明があったが、これらは全て広報に掲載しているか。

(生涯学習課)

- ・広報に掲載させていただいている。

(A委員)

- ・資料になかったが、トップアスリート派遣事業で稲沢西中のハンドボールでも行っている。中学校とブルーファルコンで日程調整してくださいとするのはいいが、実施状況を確認して説明するようにしてほしい。
- ・稲沢市部活動地域移行だよりがホームページに掲載されているが、そのページに行くのに苦労した。稲沢市教育委員会というページに学校教育課とか生涯学習課とか美術館といった項目がない。

(教育部長)

- ・HPが新しくなり、すぐにページが飛べなくなってしまったものがある。カテゴリーで「子育て・教育」というところから「小学校以上」の「小・中学校」にある状況になっている。

(A委員)

- ・教育委員会のページからすぐに行けるとありがたい。
- ・ホームページを見て、部活動地域移行を学校教育課がやっていることを知った。スポ

ーツ課に対応が出ているということを聞いたので分かったが、全く知らない人はたどり着くことができない。見てもらいたいのであれば、どこの課なのかは分からないが、一般の人がすぐ探せるように何かシステムを要望した方がいいと思う。

- ・部活動地域移行は学校教育課が主管なので、学校教育課も来て欲しかったが、どんな方向で動いているか教えて欲しい。

- ・パブリックコメントで良いとか悪いとかいうことをするのではなく、一般の方に知恵をもらうパブリックコメントをやってはどうかと思う。知恵をもらって、取捨選択はその委員会がすればいいことで、知恵をいただくわけだから、別に答弁する必要もない。

- ・新聞に県教委が部活動指導者等の募集のことが載っていたが、そういったものは、ずっと前に学校教育課に対して、部活動指導員探すにもせつかくホームページで非常勤講師の先生を募集するものが学校教育にあるのだから、そこに部活動指導員の募集の欄を1個作るだけではないのかと言っている。

- ・本当に困っているのであれば、知恵をいただくという発想にならないと、自分たちだけで考えては大変だと思う。一番は部活動指導員をしている私にアンケートが来ないというのは非常に寂しかった。

- ・各学校の保護者には地域移行だよりは配られているか。

(B委員)

- ・小中学生全員に配付されている。

(C委員)

- ・反応はどうか

(B委員)

- ・特に聞いていない

(C委員)

- ・学校の校長先生方がどのように捉えているかは分からないが、そもそも中学校の部活動というのは、競技で勝ち上がっていくことが目的ではない。あくまで教育が目的。目標として大会で優勝しようとか、自分の力で言ったらここまで目指そうとかはあっているが、そのあたりの理解がずれている方もいる。

- ・様々なところでパブリックコメントをしているが、推進していくのに都合が悪いかどうかの判断だけに使っているようにみえてしまう。知恵を集めて、いいものをみんなで作っていきましょうというのがいいと思う。

- ・美術館のことで写真を撮っていい悪いというのには基準があるのか。

(美術館)

- ・作品の保護という面でフラッシュをたかれますとダメージが及ぶことがケースもあるという点と、著作権に関連して遺族の意向もある。長谷川潔展でも強い光がダメージを与えてしまうため、照明も少し暗めにして悪影響が出ないようにということで展覧会をさせていただいている。

(C委員)

- ・ここは撮影していいよというところが1つでもあるといい。入口のここまでは撮影し

てもいいとか、ポスターと一緒に並んで記念として撮影し、あそこに行ってきたよと広めてもらえれば、宣伝にもなると思う。

(D委員)

・企画展の磯野宏夫展では、若い世代向けの展示の内容で、若年層が多く来館されたと思うが、今後こうした企画展をピックアップして展示して欲しいと思う。今回は非常によかった。

※令和5年度主要事業報告について承認

2 令和6年度主要事業に係る取り組みについて

資料2「資料2 令和6年度主要事業に係る取り組みシート」について生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順で説明

(生涯学習課)

・地域学校協働活動推進事業について説明。

(スポーツ課)

・第20回アジア競技大会（愛知・名古屋2026アジア競技大会）について説明。

・トップアスリートとの交流事業について説明。

(図書館)

・子ども読書活動の推進（稲沢市子ども読書活動の取り組み）について説明。

(美術館)

・令和6年度特別展「安野光雅展」～イマジネーションワンダーランド～について説明。

質疑応答

(E委員)

・アジア大会について、組織委員会から1名ずつ職員を派遣し、来年度はさらに1名派遣するということがあるが、スポーツ課等から人選について意見を言うことはできるか。また、県や国、スポーツ庁との密接な関係で繋いでいくことができる人でなければいけない。今も派遣された職員が一生懸命主体となってやっている。その人選はどこがしているか。

(スポーツ課)

・市役所全体の人事異動についても人事課が行っており、組織委員会への派遣についても選考は人事課で行っている。派遣するにあたっては、何年間か市役所で経験を積んだ職員の中から、職員の能力や適正、これまでの経験を踏まえて、適材適所に人員配置しているものと考えている。

(E委員)

・スポーツ課からの意見は人事課に言えないのか。

(スポーツ課)

・今回の派遣にあたって、スポーツ課で日頃行う実務のノウハウが必要かどうか確認し

たが、特に必要ないということだったので、スポーツ課の職員の中からとか、スポーツの内容について詳しい職員だとかいった希望は、人事課には特に出していない。あくまでも適材適所で派遣に向けた職員を人事課で選定している。

(E委員)

・推進室をどの段階でいつ準備できるか。また、そのためには人員確保のため増員する必要があると思うが、どこが主体で行うか。

(スポーツ課)

・近隣の開催市町をみると、推進室を作ったり、スポーツ課の職員を増員したりしているところもある。稲沢市についても昨年の9月に会場が仮決定されたため、部屋の設置や職員の増員を希望したが、それが叶わなかった。その要因としては、他の会場は2020年に会場が仮決定されたが、稲沢市は昨年の9月だったため、当初のスタートが遅れており、2020年に仮決定された会場については、前々から部屋の設置や職員の増強をしてくださいと再三言われていたそうだが、稲沢市は昨年の9月だったため、人事課でも採用の準備や職員の配置というのが難しかったと聞いている。いずれにしても大会開催まで日にちがないので、今後も部屋の設置、グループの新設、係の設置、職員の増員を強く要望して参りたいと思っている。

(E委員)

・私も本当に稲沢のことが大好きで、稲沢市が開催地として選ばれたということは素晴らしいことだと思っている。ぜひ全体で人員を増やすことをお考えいただければと思う。

・練習会場として尾西信金いなざわアリーナに打診があったと聞いている。費用負担について、全部稲沢市で負担するのか、補助があるのか分からないが、改修をどこにするか、いくらかかるかということについて概算はできているか。

(スポーツ課)

・組織委員会からどこがどういうふうに改修が必要かということは具体的には聞いていない。ただ、イメージとしては、アリーナには空調があるので、その他に役員室などの待機する場所の空調が必要ではないかなというのと、トイレの和式率が高いため、トイレも改修していかなければいけないと思っている。また、県の補助については予算のところではどうなるかわからないという状況となっている。

(C委員)

・担当の皆さんもそれから稲沢市としても力を入れてやっていただくことだと思うが、我々がここで論議すべきなのは、市民の皆さんにいかに周知し、応援していただき理解していただくかということかと思う。

3 その他

配付資料について生涯学習課から説明

〈午後3時55分閉会〉